

回復期リハビリテーション病棟 管理栄養士必携

回復期リハビリテーション病棟
管理栄養士必携

改訂
第2版



一般社団法人
回復期リハビリテーション病棟協会
Ka Sukui Rehabilitation Ward Association

栄養委員会

巻 頭 言

回復期リハビリテーション病棟はADLを向上して在宅での生活を取り戻すことをチームで支援することを目標に多職種が病棟専従あるいは専任となって関わる病棟です。集中的な個別リハビリテーションを核として、リハビリテーション以外の時間でも在宅を想定したADL改善などの取り組みが進められています。患者さんが心身ともに元気で目標を達成できるようにあらゆる職種が支援しますが、中でも栄養管理は大きな要素です。まずは安全でおいしい食事を提供し、口から食べることができるよう食事形態にも工夫が求められます。リハビリテーションを中心に豊富な活動量が求められる患者さんには栄養状態の評価と十分な栄養補給が求められ、再発予防や基礎疾患に対応できる食事を提供するとともに患者・家族への指導も欠かせません。

2006年にリハビリテーションの提供量が1日3時間に引き上げられてからは特に栄養補給が重要な課題となっています。そのような回復期リハビリテーション病棟では従来から管理栄養士を中心に患者さんの栄養管理が図られていましたが、2018年からは診療報酬上でも管理栄養士が回復期リハビリテーション病棟の専任配置（入院料1のみ）に組み込まれました。さらに2020年度改定では努力規定も含めて全ての入院料に管理栄養士が専任配置となり、チーム医療への積極的な参加と栄養管理に関する情報提供などが期待されています。2022年度改定では、第三者評価の努力規定が設けられ、そこでは、さらなる管理栄養士の専門性の発揮が求められています。

多くの病院において管理栄養士は少数精鋭の職場であり、課題や疑問を抱えながら業務にあたっています。協会では栄養委員を中心に栄養ケアを多職種で介入するシステム構築のための教本として管理栄養士必携を作成し、今回、2022年度改定を踏まえた内容で増刷いたしました。管理栄養士必携を通じて全国の回復期リハビリテーション病棟での栄養管理のレベルアップ、チームアプローチの推進に役立てていただければ期待しています。

2022年4月

(一社) 回復期リハビリテーション病棟協会会長
京都大原記念病院 (医師)
三橋尚志

巻 頭 言 (初版)

リハビリテーションは(運動)学習を核とする医療です。臓器別というよりも、臓器横断的な考え方で対応し、筋力低下などの機能障害、歩行障害などの能力低下、そして家や社会生活面での社会的不利に立ち向かいます。栄養に関する知識や実践は、直接的な嚥下障害対応から、筋力増強等の土台、そしてモチベーションの面まで多岐にわたり必要です。

回復期リハビリテーション病棟はリハビリテーションのために設定された病棟であり、チームを組んで医療に当たります。そのチームの主力メンバーとして管理栄養士が位置づけられます。これは2018年度診療報酬改定でもはっきりしてきた現実です。チーム医療では、各々のメンバーに実力のあることがまず必要ですし、かつ、対応する患者に合わせて担当領域を柔軟に編み上げる職種横断的(transdisciplinary)な動きも大切です。管理栄養士の皆さんにも、低栄養状態や運動に関わる栄養学に長けていて、かつ、患者さんが何を目的としてどのメンバーがどんな対応しているかを知っている仲間として活躍して欲しいと思います。

この本が、管理栄養士のスキルアップ、そして回復期リハビリテーション病棟のレベルアップ、リハビリテーションを必要とする全ての患者さんたちに貢献することを願っています。

2019年2月

(一社) 回復期リハビリテーション病棟協会会長
藤田医科大学七栗記念病院 (医師)
園田 茂

“管理栄養士必携”を手に病棟へ！

回復期リハビリテーション病棟の管理栄養士は、栄養専門職としての知識と技術を持ちつつ、チームの一員として貢献することが求められています。単に病棟へ足を運ぶだけではその役割を果たすことは難しいといえるでしょう。管理栄養士として何を実践すべきなのか、どこにリーダーシップを発揮すべきなのか。具体的・実践的に役立つように作成したのが“回復期リハビリテーション病棟管理栄養士必携”です。

本書は、2019年発行の第1版と2020年度の第2版をベースに、2022年度診療報酬改定内容を追加し2022年診療報酬改定追加版として一部内容を追加修正いたしました。今回も多くの皆様のご協力により、まとめることが出来ましたことを心から感謝申し上げます。

2022年度診療報酬改定では、入院料1において管理栄養士が専任配置となり、入院料2～6では管理栄養士の専任配置が努力義務となりました。2022年度改定では、回復期リハビリテーション病棟患者の重症者割合が引き上げられ、さらに適応疾患に心大血管疾患が追加されました。栄養管理の重要性和臨床現場における管理栄養士への期待は益々高まっているといえるでしょう。

病棟の機能や目的、他職種との役割やICF、疾患の治療・管理、リハビリテーション総論、ADLなど回復期リハビリテーション病棟に関わる管理栄養士が理解しておくべき知識を最初に掲載しました。最も重要な管理栄養士業務については、入院当日から入院中、退院前から退院後のフォローアップまでより具体的な内容を盛り込んでいます。実際に病院で使用されている栄養管理のフローチャートや書類など、すぐに参考にできる資料も網羅しました。巻末には診療報酬改定と病院機能評価項目から栄養関連についての内容を一部抜粋しています。

回復期リハビリテーション制度創設から20年。管理栄養士は回復期リハビリテーション病棟における専門職種である、との自覚を持って本書を活用し、一人ひとりが患者さんと向き合いながらチームに貢献できることを心から願っています。

2022年4月

(一社) 回復期リハビリテーション病棟協会栄養委員長
熊本機能病院 (管理栄養士)
高山仁子

目次

1. 回復期リハビリテーション病棟とは何か	1
①回復期リハビリテーション病棟に関連する診療報酬制度	1
②回復期リハビリテーション病棟におけるチーム医療	10
③医師の役割	13
④看護師の役割	17
⑤介護福祉士の役割	19
⑥理学療法士の役割	23
⑦作業療法士の役割	26
⑧言語聴覚士の役割	28
⑨社会福祉士の役割	31
2. 回復期リハビリテーション病棟における栄養ケアの意義と管理栄養士の役割	35
①入院対象疾患／併存疾患の治療・管理・リハビリテーション	35
②国際生活機能分類 (ICF) と栄養	46
③回復期リハビリテーション病棟における栄養ケアのエビデンス	50
④栄養ケア体制を構築する	55
⑤臨床データの管理	59
⑥求められる管理栄養士像	61
3. 回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士業務の実際	65
①業務の概要	65
②栄養スクリーニング	67
③栄養アセスメント	71
④日常生活動作 (ADL) の評価	75
⑤摂食嚥下障害の評価	78
⑥必要栄養量の算出	82
⑦栄養ケアプランの立案・実施	85
⑧リハビリテーション実施計画策定への参画	88
⑨栄養モニタリング	91

⑩カンファレンスへの参加	93
⑪退院支援（栄養指導・調理指導・栄養ケアの調整・情報提供）	96
⑫フードサービスへの関与（給食業務委託）	99
⑬フードサービスへの関与（給食業務直営）	101
4. 生活期との連携	104
①生活期との連携に必要な視点	104
②栄養ケア情報の共有・提供	107
③退院後のフォローアップ	110
④居宅療養管理指導（在宅訪問栄養指導）	113
5. 回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士業務の実例	116
①ケアミックス型病院（給食委託/専任）：恵寿総合病院	116
②ケアミックス型病院（給食直営/専任）：美原記念病院	122
③回復期リハビリテーション専門病院（給食直営/専任）西広島リハビリテーション病院	125
④回復期リハビリテーション専門病院（給食委託/専任）東京湾岸リハビリテーション病院	129
⑤回復期リハビリテーション専門病院（給食委託/専任）長崎リハビリテーション病院	134
⑥回復期リハビリテーション専門病院（給食直営/専任）初台リハビリテーション病院	141
6. 管理栄養士のアプローチの実際	145
①脳卒中症例に対する栄養ケア	145
②大腿骨近位部骨折症例に対する栄養ケア	149
付 表	153
巻末資料 1：令和 2 年度診療報酬改定における栄養関連分野（抜粋）	162
巻末資料 2：令和 4 年度診療報酬改定における栄養関連分野（抜粋）	169
巻末資料 3：病院機能評価（高度・専門機能）リハビリテーション（回復期）Ver.1 評価項目（抜粋）	173

回復期リハビリテーション病棟管理栄養士必携

第1版第1刷：2019年2月21日発行

第2刷：2020年3月12日発行

第2版第1刷：2020年11月10日発行

第2刷：2022年5月20日発行

編 集

一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会 栄養委員会

栄 養 委 員 長 高山 仁子 (熊本機能病院)

副委員長(責任編集) 西岡 心大 (長崎リハビリテーション病院)

副 委 員 長 漆原 真姫 (やわたメディカルセンター)

委 員 梶谷 裕美子 (初台リハビリテーション病院)

新谷 恵子 (初台リハビリテーション病院)

影山 良子 (西広島リハビリテーション病院)

木崎 恵梨子 (東京湾岸リハビリテーション病院)

屋代 朋子 (京都大原記念病院)

担当常任理事 岡本 隆嗣 (西広島リハビリテーション病院)

発 行

一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会

〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-18-12 内神田東誠ビル 9 階

電話：03-5281-8531 FAX：03-5281-8535

E-mail：kaifukuki@rehabili.jp

ホームページ <http://www.rehabili.jp/>